

みずほCustomer Desk Report 2018/03/02 号(As of 2018/03/01)

国際為替部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	106.75
TKY 9:00AM	106.65	1.2192	130.01	1.3753	0.7763
SYD-NY High	107.20	1.2273	130.78	1.3785	0.7769
SYD-NY Low	106.16	1.2155	129.77	1.3712	0.7713
NY 5:00 PM	106.25	1.2266	130.29	1.3776	0.7757
NY DOW	24,608.98	▲ 420.22	日本2年債	-0.1600	0.00bp
NASDAQ	7,180.56	▲ 92.45	日本10年債	0.0400	0.00bp
S&P	2,677.67	▲ 36.16	米国2年債	2.2158	▲ 4.02bp
日経平均	21,724.47	▲ 343.77	米国5年債	2.5839	▲ 6.04bp
TOPIX	1,740.20	▲ 28.04	米国10年債	2.8105	▲ 5.28bp
シカゴ日経先物	21,120	▲ 800.00	独10年債	0.6395	▲ 1.40bp
ロンドンFT	7,175.64	▲ 56.27	英10年債	1.4650	▲ 3.50bp
DAX	12,190.94	0.00	豪10年債	2.7290	▲ 4.60bp
ハンセン指数	31,044.25	199.53	USDJPY 1M Vol	8.63	0.18%
上海総合	3,273.75	14.35	USDJPY 3M Vol	8.72	0.43%
NY金	1,305.20	▲ 12.70	USDJPY 6M Vol	8.75	0.29%
WTI	60.99	▲ 0.65	USDJPY 1M 25RR	-1.23	Yen Call Over
CRB指数	193.95	▲ 0.00	EURJPY 3M Vol	9.25	0.56%
ドルインデックス	90.25	▲ 0.36	EURJPY 6M Vol	9.23	0.35%

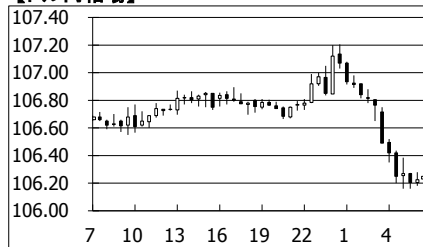
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
3月1日	-	日	片岡日銀審議委員「物価目標にむけ、もう一段の追加緩和が必要」	
	10:45	中	財新・製造業PMI	2月 51.6 51.3
	22:30	米	個人所得/個人支出(前月比)	1月 0.4%/0.2% 0.3%/0.2%
	22:30	米	PCEコアデフレーター(前月比/前年比)	1月 0.3%/1.5% 0.3%/1.5%
	23:45	米	マークイット製造業PMI(確報)	2月 55.3 55.9
3月2日	0:00	米	ISM製造業景況指数	2月 60.8 58.7
	-	米	パウエルFRB議長上院議会証言「賃金の明確な上昇を示す確固たる兆候は確認していない。」	
	-	米	ダドリー・NY連銀総裁講演「(18年の4回の利上げについて)緩やかな利上げにとどまっている」	

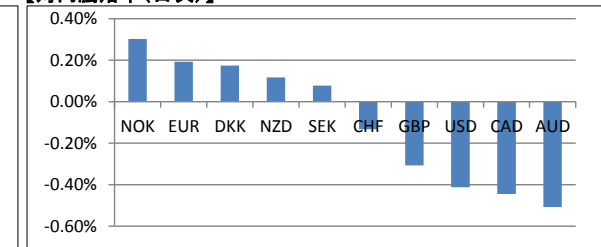
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
3月3日	0:00	米	ミシガン大消費者マインド	2月 99.5 99.9

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	105.00—107.00	1.2200—1.2350	129.00—130.75

【マーケット・インプレッション】

昨日の海外時間のドル/円相場は、軟調な展開。欧州時間に106円台後半で揉み合い後、イニシャルクレーム、米1月個人所得、同2月ISM製造業景況指数が良好な結果となったことから米金利反発、ドル/円も一時、107.20まで上昇。しかしながら、トランプ大統領が「鉄鋼25%、アルミ10%の輸入関税を賦課する」と述べると米株が下落幅を拡大させ、「質への逃避」から米債も買い戻されるとクロス円下落の流れが一段と強まる中、ドル/円は106.16まで下落した。本日のドル/円相場は、戻りの鈍い値動きを予想する。世界的な株価調整地合いが続く中、米保護主義懸念も強まり、リスク回避的な円買い優勢の展開が見込まれる。クロス円にもつられドル/円についても上値の重さが意識されそうだ。

東京	東京時間は106.65レベルでオープン。日経平均株価が寄り付きから軟調に推移するのを眺めて106円半ばまで小幅に下落。日銀の片岡審議委員から「(2%)の物価目標に向けもう一段の追加緩和が必要」との発言も伝わったが、反応は限定的。その後は、日経平均株価が下げ幅を一時400円超まで拡大させたが、株の下落に反してドル円は106円台後半で底堅く推移し、106.85レベルで海外時間に渡った。
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、106.85レベルでオープン。特段の材料無い中、動意薄い展開。オープンレベルを小動かし、106.77レベルでNYに渡った。ポンドは、1.3762レベルでオープン。英2月住宅価格が、前月比マイナ0.3%(予想プラス0.2%)と、6か月ぶりの低下を示したことで、1.3728まで下落。しかし、明日のメイ首相演説を控え、積極的に下値追ひする雰囲気ともならず、首相報道官が、今月中の移行期間の合意に向け、交渉は順調であるとの声明を発すると、小幅に反発。1.3742レベルでNYに渡った。
ニューヨーク	106.77レベルでNYオープン。朝方発表の指標が予想比小幅に上振れたことからビッド気味に推移するなか、10時発表のISM製造業景況指数が2004年5月以来の高水準と予想を大幅に上回ったことから、米株上昇、クロス円もストップを巻き込みながら上昇といった展開にサポートされ、ドル円は本日高値107.20まで上昇。しかし、上院銀行委員会公聴会で発言したパウエルFRB議長が「米景況が過熱していることを示す証拠は全くない」「決定的な賃金上昇を示す強い証拠はまだ見られない」など、27日の議会証言からは幾分効派なトーンが弱まったことを受け、上昇一服。その後、トランプ米大統領がホワイトハウスにおいて「米国は鉄鋼に25%、アルミに10%の関税を課す計画。来週中に署名・発令となる」と発表したことを受け、米株、米金利、ドルは大幅に低下。ドル円は短期的なサポート106.50近辺を下げけると、ストップを巻き込みながら本日安値106.16まで下落し、106.25レベルでクロス。なお、パウエルFRB議長とダドリーNY連銀総裁は「貿易制限を設けないことが世界経済にとってプラスになる」とのスタンスを表明し、トランプ大統領の保護主義を批判した。一方、ユーロドルは1.2170レベルでオープン後、米指標結果を受けたドル買いに1月12日以来となる1.2155まで下落したが、「ECBが来週の政策会合で緩和バイアス削除を議論か」との一部報道に反応し1.2210まで上昇。その後、上記の米国の関税賦課報道を受けたドル全面安の展開に1.2273まで上昇し、1.2266レベルでクロス。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

担当: 山本・鶴田